

タイトル!! 汐製菓会社の新作16

ガム1

登場人物

汐（しお）（30代）

汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、奇想天外な菓子商品を発案する。快活でエネルギッシュな性格。

塩田（しおだ）（30代）

汐の秘書。真面目で几帳面、心配性な性格で、常に汐の大胆な発想に振り回されている。しかし、実は大の菓子好きであり、製菓業界に強い愛着を持つ。

従業員たち（20～50代）

汐製菓会社の社員たち。新商品に対して好奇心を持ちながらも、やや懐疑的な姿勢を見せる。

お客さんたち（様々な年齢層・国籍）
汐製菓のターゲット市場である一般の消費者たち。日本人と外国人が混ざり、新しいものの好きもいれば、保守的な人もいる。

第一幕

（会社の会議室。広々としたオフィスには、壁一面に奇抜な新商品開発のアイデアが書かれたホワイトボードがある。汐が机に向かって、熱心にアイデアをまとめている。）

汐：

（独り言）「うん、これでいい。次の商品は…」

『春巻き味ガム』だ！（満足げに頷き）

（塩田が書類を抱えて入室）

塩田：

「社長、会議の資料がまとまりました。次の

新商品の発表会に向けて、準備も整いました。」

汐..

(目を輝かせて)「よくやった、塩田くん！それでね、次の商品なんだけど…『春巻き味ガム』に決めたよ！」

塩田..

(驚いて)「春巻き味…ガムですか？それは…ちよつと大胆すぎませんか？お菓子として成功するかどうか…少し心配です。」

汐..

(大笑いして)「大胆でなければ、面白くないだろう？世の中に無いものを作るのが私たちの使命だ。きつと世界中で話題になるぞ！」

塩田..

(ため息をつきながら)「そうは言っても…私たちのターゲット市場が受け入れるかどうかは…」

汐..

（自信満々で）「大丈夫だ！人々は新しい味に挑戦したいものなんだ。特に、エキゾチックな春巻きの味なんて、ガムにぴったりじゃないか！」

塩田..

（内心で菓子好きな自分に葛藤しながら）
「まあ…社長がそこまでおっしゃるなら…試作を始めてみます。」

第二幕

（数日後、汐製菓会社のテストキッチン。塩田が春巻き味ガムの試作品を並べている。汐はその一つを手取る。）

汐..

「塩田くん、どうだい？試食してみたか？」

塩田..

（少し不安そうに）「はい、一応。でも…やはり

味が独特すぎる気がします。春巻きの具材の風味が…口の中で広がると、その後のミント感が…」

汐…

（意気揚々と）「それがいいんだよ！最初は驚き、次に新鮮さ、そして最後に爽やかさが残る…完璧なガムだ！」

塩田…

（心配そうに）「でも、消費者の反応が…」

汐…

（自信満々で）「心配いらない！一度世に出れば、みんなハマるに違いないさ。さあ、試作品をいくつか作って、社内だけでなく、実際にお客さんにも試してもらおう。」

第三幕

（ショッピングモールの特設ブース。汐製菓の新商品発表イベントが開催されている。ブー

スには「新作ガム試食コーナー」と書かれた大きな看板が掲げられている。

汐…

（マイクを持って）「皆さん！今日は汐製菓の新作ガム、『春巻き味ガム』の試食会によるこそ！このガムは、これまでにない新しい味わいを皆さんにお届けします！」

（集まったお客さんたちが興味津々にガムを手取る。日本人のお客さんと、外国人観光客が混ざっている。）

お客さん（日本人女性）…

「春巻き味？ちょっと変わってるけど、気になるわね…」

お客さん（日本人男性）…

「これは…一体どんな味がするんだろうな？」

お客さんω(外国人観光客ニ)：

「スプリングロール味のガム？それは珍しい！

試してみなきゃ！」

お客さん♪(外国人観光客ニ)：

「面白い味ですね、どんな味だろうか。」

(お客さんたちが次々にガムを口に入れるが、
顔が一瞬で驚きの表情に変わる。)

お客さん♀(年配の日本人女性)：

「これは…本当に春巻き味がするわ！でも、ガムとしてはどうなのかしら？」

お客さん♀(若い日本人男性)：

「うわっ、最初は春巻きの味がして、その後ミントが…変わってるけど、意外とクセになるかも??」

お客さん♂(外国人観光客ω)：

「おお、本当にスプリングロールの味がする！でもミントの後味は…ちょっと違うな！」

お客さん⑧(外国人観光客④)：

「ちよつとびっくりしたけど、面白い体験ですね。」

汐：

(マイクで)「どうですか、皆さん？この新しい体験、楽しんでいただけましたか？」

(お客さんたちの反応は様々だが、ざわざわとした興奮が広がる。)

お客さん⑥(日本人の子供)：

「面白い味！でも、ちよつと変だよ！」

お客さん⑩(外国人観光客⑤)：

「面白い！こんな経験したことないよ！」

塩田：

(心の中で)「予想通りの反応だけど…やっぱり一般の消費者には難しかったかも。」

第四幕

（イベント後の汐製菓オフィス。塩田がガムの試食会の結果報告を手にして入ってくる。）

塩田…

「社長、試食会の結果ですが…やはり『春巻き味ガム』はかなり賛否両論でした。」

汐…

（少し驚いた様子で）「そうか、賛否両論だったか！でも、それは良い兆候だ。みんなが同じ反応をするわけじゃないし、話題性は十分だろう。」

塩田…

（心配そうに）「確かに話題にはなりましたが、販売となるとどうでしょうか…」

汐…

（陽気に）「心配しなくていいさ！大切なのは、常に挑戦することだ。失敗を恐れず、新しいことを試みる。それが私たちの使命だ！」

塩田..

(ほっとしながら)「そうですね、社長。次はどんなアイデアをお考えですか？」

汐..

(突然インスピレーションを得たように)「次は... そうだな! 『カレーパン味ガム』なんてどうだろうか？」

塩田..

(慌てて)「ええ!? またそんなに大胆な... でも、社長の発想には本当に驚かされます。」

汐..

(大笑いしながら)「塩田くん、これからも一緒に面白いことをやっていこう! 人々に驚きと楽しさを提供するのが、私たちの仕事だ!」

(塩田が微笑み、二人は楽しげに話しながらオフィスを後にする。)

完